

平成18年度

鳥取県立高等学校入学者選抜学力検査結果

鳥取県教育委員会

1 教科別得点の平均点及び総得点の平均点
(全日制課程)

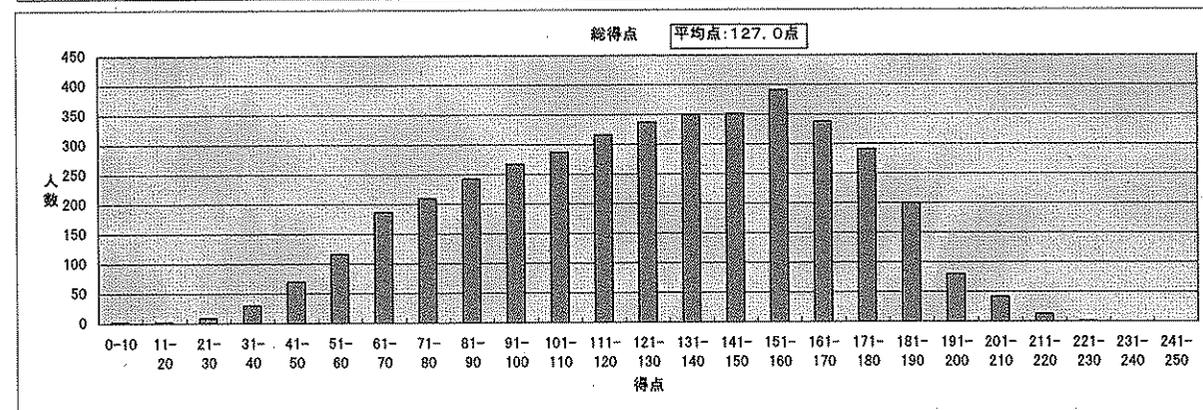
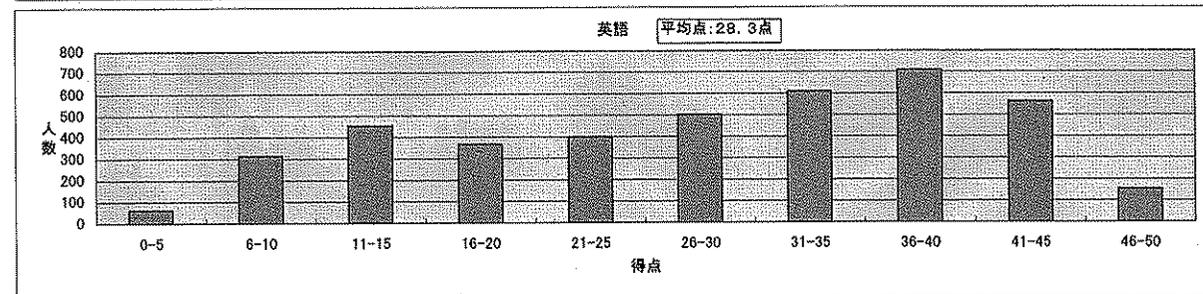
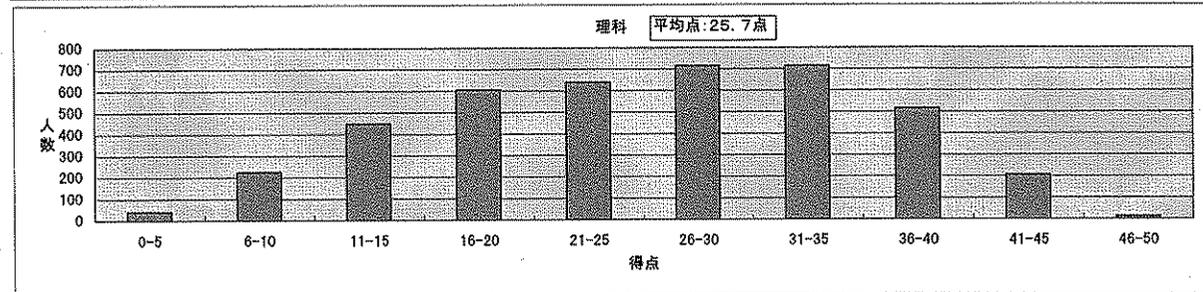
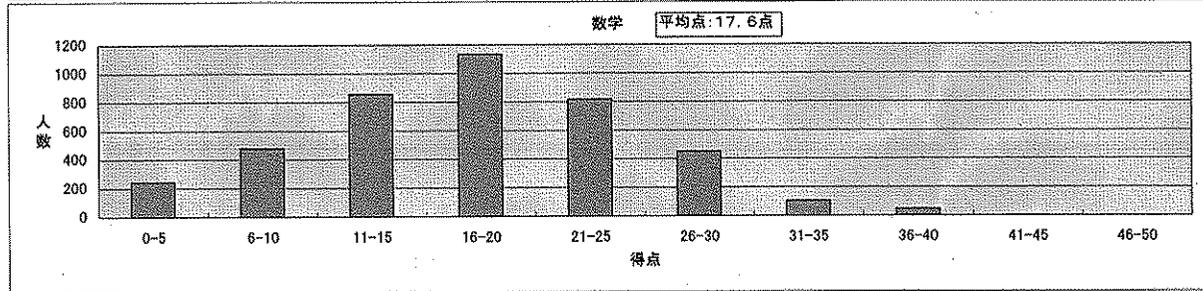
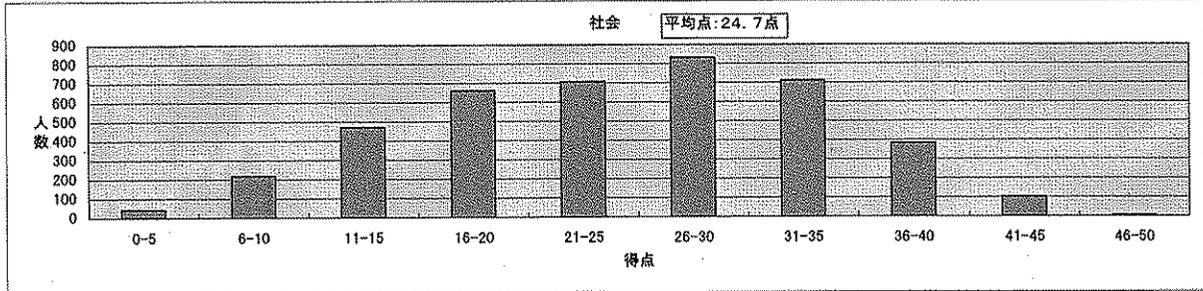
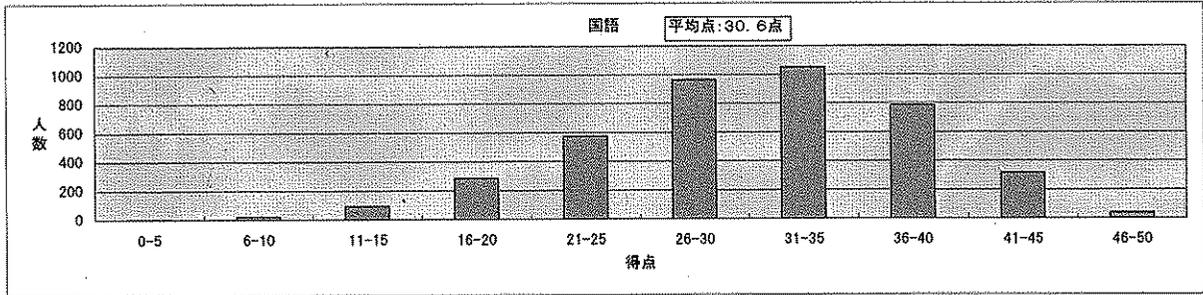
年度	教科名	国語	社会	数学	理科	英語	総得点	備考
平成18年度	平均点	30.6	24.7	17.6	25.7	28.3	127.0	各教科50点 満点 合計250点

学力検査受検者数 4,133人

(参考)

年度	教科名	国語	社会	数学	理科	英語	総得点	備考
平成17年度	平均点	24.9	30.5	22.9	25.9	28.1	132.2	各教科50点 満点 合計250点
平成16年度	平均点	32.8	28.4	27.6	32.0	27.8	148.6	各教科50点 満点 合計250点
平成15年度	平均点	34.6	29.2	23.9	28.1	27.3	143.1	各教科50点 満点 合計250点
平成14年度	平均点	28.8	28.6	25.9	26.3	28.2	137.6	各教科50点 満点 合計250点
平成13年度	平均点	31.1	31.2	28.4	30.8	28.6	151.1	各教科50点 満点 合計250点

2 教科別得点の度数分布及び総得点の度数分布(全日制課程)



得点	教科	国語	社会	数学	理科	英語
0	～ 5	3	43	244	42	62
6	～ 10	22	218	478	226	314
11	～ 15	92	471	854	450	453
16	～ 20	285	661	1134	606	367
21	～ 25	574	706	817	640	400
26	～ 30	964	831	452	716	502
31	～ 35	1050	711	104	716	609
36	～ 40	787	384	47	517	709
41	～ 45	316	102	3	207	562
46	～ 50	40	6	0	13	155
受検者数		4,133	4,133	4,133	4,133	4,133

総得点	人数
0 ～ 10	2
11 ～ 20	2
21 ～ 30	9
31 ～ 40	30
41 ～ 50	70
51 ～ 60	116
61 ～ 70	187
71 ～ 80	210
81 ～ 90	243
91 ～ 100	267
101 ～ 110	287
111 ～ 120	316
121 ～ 130	337
131 ～ 140	350
141 ～ 150	351
151 ～ 160	391
161 ～ 170	338
171 ～ 180	291
181 ～ 190	200
191 ～ 200	80
201 ～ 210	42
211 ～ 220	13
221 ～ 230	1
231 ～ 240	0
241 ～ 250	0
受検者数	4,133

3 教科別の学力検査結果の概要

高等学校課

国 語

- 1 問題一は、例年通り、基礎的な国語力をみるための小問題集合形式としたが、概ねできていた。問三の総画数については、誤答がやや多かった。「複」が「ころもへん」であることへの理解が不十分と考えられる。
- 2 問題二は、説明的な文章を出題した。比較的平易な文章のため、内容を問う問三から問六は、正答率が高い。しかし、抽象化された表現の内容を問う問七の正答率はやや低く、無解答も多い。問八も、正答率が大変低かった。具体的な言葉と抽象的な言葉を関連づけながら思考し、文脈を把握する力がやや不足していると考えられる。
また、問二は文法の基礎的な知識に関する問いであったが、正答率がかなり低い。品詞の違いが理解できていないためと考えられる。
- 3 問題三（古典）は、生徒もよく知っていて分かりやすい「伊曾保（イソップ）物語」を出題した。問一の歴史的仮名遣いの問題は、大変正答率が高かった。その他の問題の正答率も概ね妥当と考えるが、問二の助詞「の」を識別する問題は、もともと基本的な古典の言葉の使い方であることを考えると、やや正答率が低い。
- 4 問題四では、文学的な文章として小説を出題した。登場人物の心情の把握など直接的な表現に関しては理解ができているが、間接的な表現や象徴化された言葉などに関する問いでは、正答率がやや低かった。問四の対義語を見つける問題では、語句が十分理解できていないため、正答率が低かった。
問十の文章の内容と関連づけた作文の問題では、例年と同じく無得点者の比率が高かった。
- 5 全体としては、生徒の学習や生活を見つめる契機となる題材を選んだ。全体的な正答率から考えると難易度は妥当であった。中学校では、様々な言語活動を通して語いや言語感覚を豊かにしたり、自分の言葉で表現する取り組みについて、更に力を入れていく必要がある。特に「自分で考えて書く」「論理的に書く」という作文等の力の向上が大きな課題である。

社 会

- 1 地理的分野においては、基礎的・基本的事項に関する知識や、地図、グラフや統計表の読み取りの基本な技能については、かなり身に付いている。しかし、気候や地形図の特徴を判断するなど、複数の資料を比較したり、関連づけたりする思考・判断を問うような応用問題については、十分な力が付いているとはいえない。学習した知識をもとに、総合的に考え、判断する能力の育成が必要と思われる。
- 2 歴史的分野においては、歴史上の人物を問う問題については正答率が高いが、時代の特徴をとらえて判断する問題については、理解の不十分さがみられた。また、時代の変化に対する知識を背景として、資料を解釈して記述する問題では、無解答も目立った。歴史の流れを大きくとらえるとともに、各時代の歴史用語を正確に理解し、その上で歴史を総合的・多面的に考える力の育成が必要と思われる。
- 3 公民的分野においては、基礎的・基本的事項に関する問題については、よくできていたが、国際社会について具体例をあげた問題や、政治・経済の分野での正確な理解を問う問題の場合、十分な対応ができていない。また、記述問題での無解答も多い。具体的な事象に対して、基本的な知識をもとに、思考し判断する力の育成が必要と思われる。
- 4 いずれの分野においても、社会的事象についての正確な理解とともに、総合的・多面的に考える力を育成するとともに、表現する能力の育成が必要であると思われる。

数 学

- 1 各学年・各分野の基礎的・基本的事項の理解度及び計算力をみる問題においてはおおむね正答率も高く、平素の学習の成果が表れていた。
- 2 関数のグラフの基本的な性質はある程度理解できていたが、条件を的確に把握し、図形と関連づけるような総合的な問題の正答率は低かった。
- 3 文章問題に書かれている条件を利用して規則性を見いだしたり、事象を直感的に捉えて考察したりするような総合的な思考力を高める必要がある。
- 4 具体的な操作を通して、推論したり、法則性を導いたりするような数学的な見方・考え方は、十分には身につけていない。そのため、数学的な推論の過程を通して、事象をとらえたり考えたりしながら、その力を育成していく必要がある。
- 5 全体として問題量が多く、時間内に解答できない受検生が多く見られた。

理 科

- 1 身近な自然の事物・現象についての基礎的・基本的事項の理解をみる問題については、平素の学習の成果が現れていた。ただ、火星の方位と色を問う設問や、光合成の結果つくられた栄養分が植物の体の中を移動するときにかえられる物質名を問う設問の正答率は、比較的低かった。広く全領域にわたって学習することが必要である。
- 2 全般的に、選択肢により解答する設問に比べ、記述により解答する設問では正答率が低かった。また、設問に対して的確に解答できていない者も見られ、文章を読み取る基本的な力が不足する者が多かった。さらに、自分の考えを適切に表現する力が不足している者も目立った。
- 3 実験・観察・観測などにより得られたデータをグラフ化したり、グラフを読みとって法則性を見出すなど、科学的に思考することを要する設問は正答率が低かった。化学変化に関する実験を題材とした問題では、個々の物質に関する知識だけでなく、どのような実験操作を行えばどのような変化が見られ、どのような性質を示すのかなど総合的な考察力が要求され、正答率が低いだけでなく、無答率も高かった。
- 4 日常生活の中で驚いたり疑問に感じた現象について、調べたり考えたりする態度や能力を育成したり、平素の学習に実験・観察を可能な限り取り入れて、得られたデータを分析し、考察する習慣をつけるなど、探究的な学習を一層推進する必要がある。

英 語

- 1 放送による聞き取りの問題では、日常会話のようなセットフレーズの理解は特によくできていた。しかし、聞き取れた単語だけにとらわれず、全体的に何が話されているのかを理解したり、あるいは具体的なことを正確に聞き取り、それに基づいて論理的に判断する問題では、正答率が低かった。
- 2 会話文を英語で表現する問題では、電話での会話のように日常生活でよく使う表現については非常に正答率が高かった。しかし、与えられた日本語の内容を英語で表現する問題では、その日本語にとらわれたことによる誤答が目立った。
- 3 英文の内容を把握して日本語で答える問題では、ある程度おおまかに内容を理解することはできていても、それを日本語で正確に表現することができていない。話の概要を読み取る能力と、その中のポイントとなる点を正確に把握することで全体の内容の理解を深める能力を共に養うことが大切である。
- 4 内容を要約する問題では、文法・語いの方の差がよく表れていた。本文の単語をそのまま当てはめればよい形の問題ではなく、本文の内容を理解した上で、それを別の形で表現するためには、基本的な単語、構文はしっかり身につけておくことが大切である。